



JANSI
Japan Nuclear Safety
Institute

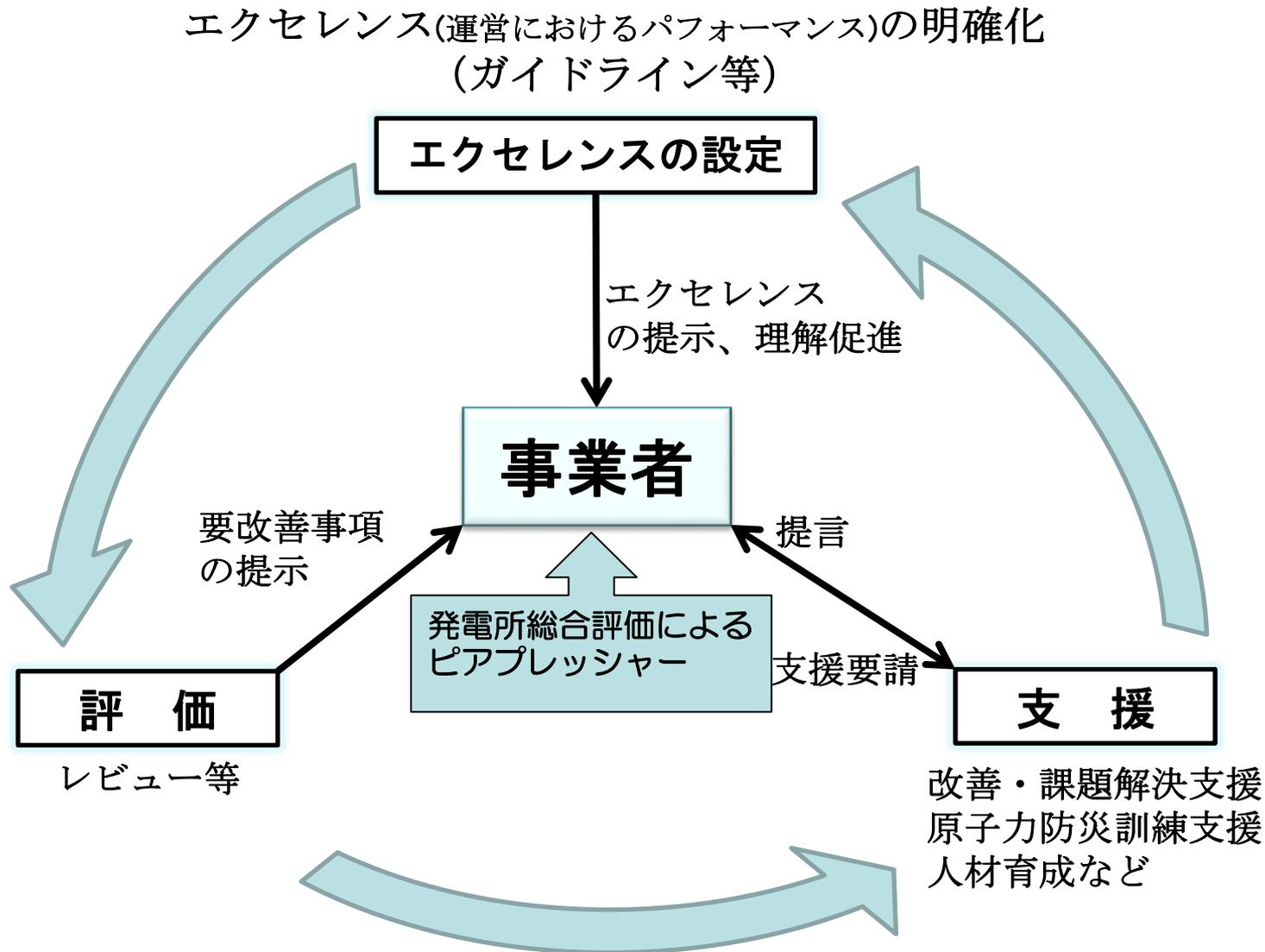
JANSIの取組状況と今後の目標について

平成29年6月6日
原子力安全推進協会
理事長 松浦祥次郎



事業者を牽引するJANSIの活動サイクルの全体像

1



事業者を牽引するJANSITトップの「振る舞い」

- 福島第一事故の反省を踏まえ、JANSIは規制の枠組みを超えて、事業者の活動を牽引し、世界のエクセレンスを追求する。
- このため、JANSITトップが要改善事項などを直接事業者CEOに伝え、改善を促す。

【ピアレビュー関連】

- ピアレビュー実施前に事業者CEOに直接協働要請
- ピアレビュー結果(要改善事項等)を事業者CEOに直接提示
(共通の課題としてCEO会議でも内容を共有)

【総合評価】

- 総合評価結果(5段階評価)をCEO会議で提示

【安全文化】

- 安全文化に係る現場診断結果を事業者CEOに直接提示

【CEO会議、CEO研修】

- 自主規制実現に向けてCEOと直接意見交換



【ピアレビュー】

- JANSI発足(2012年)以降、**8発電所**(東通、島根、敦賀、柏崎刈羽、志賀、川内、高浜、美浜)に対して実施。
うち、2016年度は川内、高浜、美浜について実施

【再稼働支援】

- **4発電所**(川内、高浜、伊方、玄海)に対して実施。
うち、2016年度は伊方、玄海について実施

【発電所総合評価】

- 2016年度から一部運用を開始、2017年度から本格運用を開始。



ピアレビュー活動状況

4

現場観察

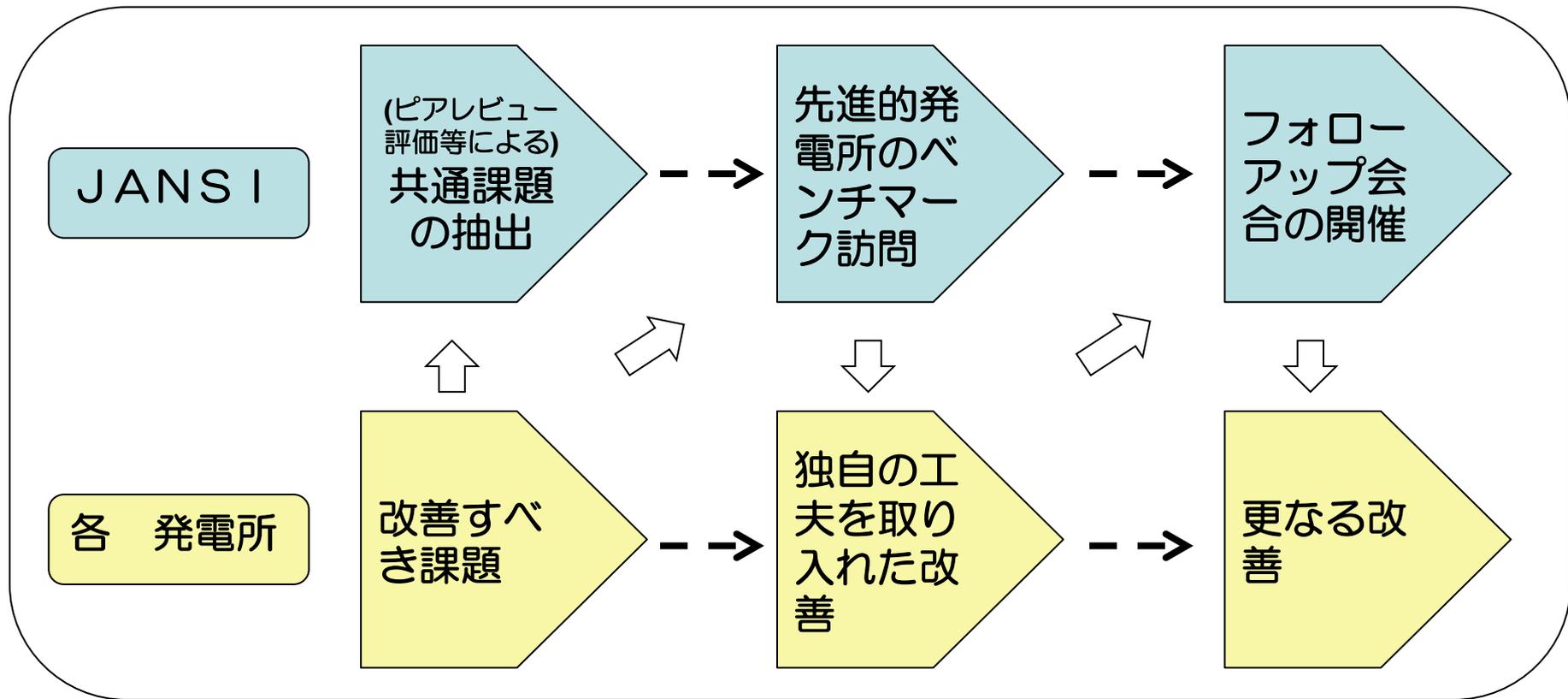


インタビュー



チームミーティング





テーマ：「パフォーマンス改善」の取組事例

指標の設定、役職者による作業観察、是正措置プログラムの改善など



【目的】

原子力事業者が実施している原子力防災訓練の実効性の確保・向上

【概要】

『JANSIガイドライン』に基づき、『至近のピアレビュー結果』『観察結果』等を総合的に勘案して、訓練計画や訓練自体の課題を引き出し、各所の事情にあった助言・提言を行う

【特徴】

- ・派遣されるチームは、他事業者の関係者、事業者以外に防災・緊急時対応分野の有識者、JANSIの関係者から構成（7～9名程度）
- ・訓練の成否は段取りにあるという考えのもと、訓練計画段階から確認
- ・他事業者からの参加者は、他所の観察により、自所の「強み」「弱み」を把握

【活動実績】

東通、島根、
浜岡、敦賀、
志賀



【これまでの取組】

- JANSIは事業者とともに「**原子力安全の観点**」から再稼働を支援
- 「**再稼働ガイドライン**」を作成し、レビューを継続。
ガイドラインを継続的に改善。
- 意見交換会やデータベースの整備により、先行プラントの経験を後続プラントに継承

【取組の評価】

- **支援を重ねるたびに、支援に対する事業者の評価が高まり、事業者間の協力関係が進化**

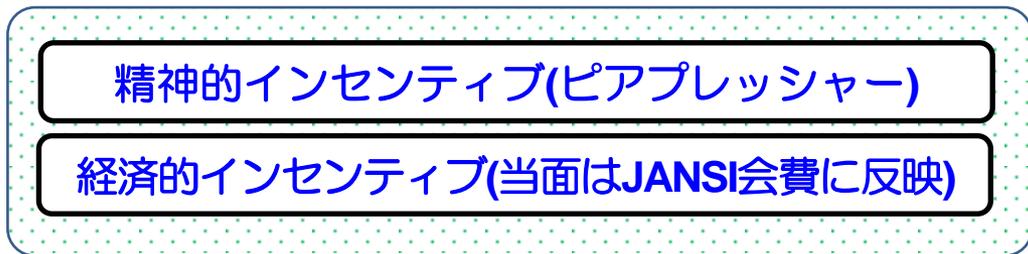
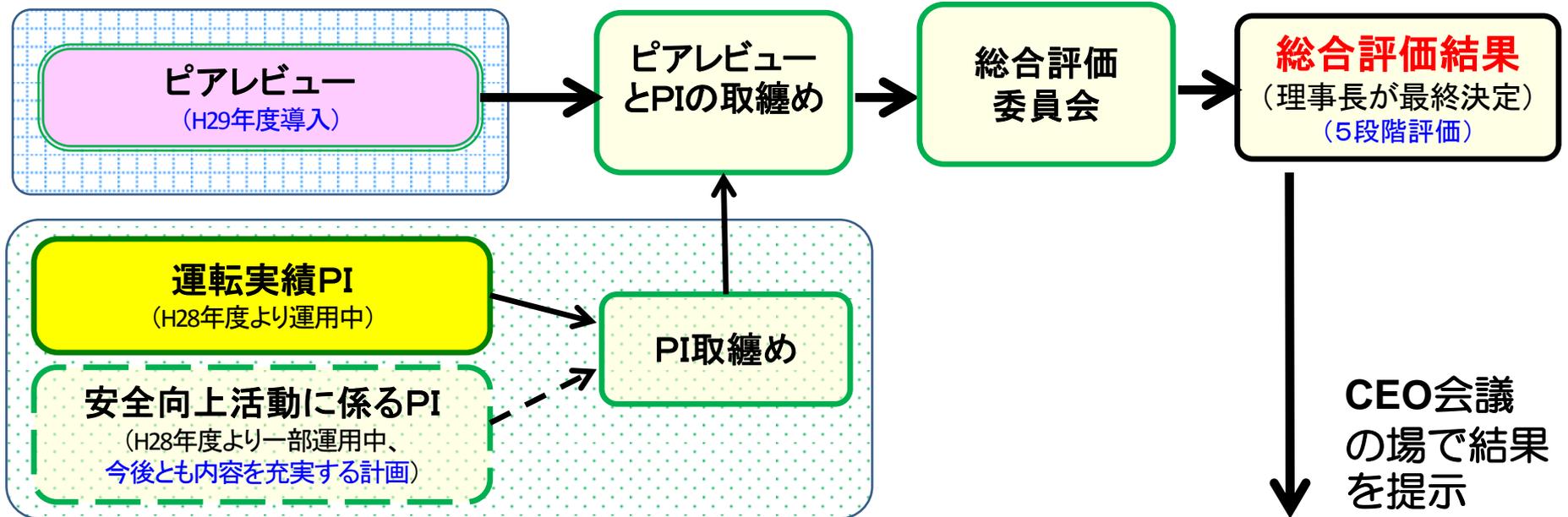
【今後の取組】

- ①ウォークダウン、②レビュー、③駐在員の派遣によるフォロー、の組合せで**第三者組織としてレビュー**を中心とした支援を行っていく。
- さらに、WANO-TCのリスタートレビューにJANSIが参加し、**JANSI再稼働支援の実効性を上げる**など、WANO等との連携を深め、**海外知見の一層積極的な活用**等改善を進めていく。



発電所総合評価の基本的な枠組み

8



【今後の目標】

JANSIは、自主規制組織として、自ら高みを目指すとともに、エクセレンスの設定、評価、支援のサイクル及び総合評価によるピアプレッシャーのサイクルを確立し、実効性を高める

また、国の規制と信頼関係を構築しつつ、事業者の自主的安全性向上活動を牽引し、原子力施設の継続的な安全運転を実現する

【中期的課題と対応】

➤ インセンティブ設計

→経済的インセンティブの検討を進め、将来条件が整えば、原子力財産保険料への反映に移行する

➤ 自主規制活動に対する社会の理解促進

→JANSIは、自主規制の役割・意義等に係る社会の理解促進に対して、「**Safety Focus**」の立場から、真摯に協力する

